
戦うだけ～ただ守るために～

kokoro

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

戦うだけゝただ守るためだけにゝ

【Nコード】

N0805L

【作者名】

k o k o r o

【あらすじ】

ある時、なによりも守りたい大事なものを失った主人公。そんな主人公を突然襲った日常の変化。人との関わりを絶っていた主人公に起こった出来事。そこで見たもので何を感じ、どう成長していくのか。そんな彼と少女達との恋愛、そして少年達との友情の物語を綴る、シリアスタマにありの、恋愛ファンタジー！

プロローグ（前書き）

連載はじめました！

いきあたりばったりで書いていく小説ですので完全不定期更新かと・
・・・。

最初から短くて申し訳ないです（汗

でも、つぎはもっと長くなると思われるのでだいじょうぶです！
それでは、駄文ですが読んでくださいませ

プロローグ

皆には守りたい人・物ってなにかあるだろうか？

それは家族かもしれない、それとも恋人？ ペットって人もいるかもしれない。

ほかにプライドだったり、自分の考えだったりとか……。

数えだしたらキリがない。

でも、守りたいものがあるってことはすごく大切な事だと思うんだ僕は。

それのおかげで強くなりたいと願い、優しくなりたいと思い、そして成長できるのだと思うから。

僕もそんな人間の一人だ。

いや、そんな人間の一人だったと言ったほうが正しいかな？

あの時は必死だった。自分の命に賭けてでも一生をかけてでも守りたいというもののために努力する毎日だったから。

武術を習い、剣術を習い、勉強にも手は抜いたことも一度だってなかった。

そう……。ただ平凡で退屈な毎日。でも、なによりも輝いている。そんな毎日を守りたかった。

けど駄目だったんだ。

無理だった。

そんな、ちつぽけな僕の努力はなんの意味はなさなかった。

ただ無常に。

ただ非常に。

ただ冷酷に僕に現実を突きつけただけだったんだ。

僕は立ち尽くした。何も考えられなかった。

そして悟ったんだ。

たとえ、どんなに守りたいものがあつたとしてもどうすることもできない事があるんだって。

どれだけの努力をしたとしても、祈りをささげても、思ったとしても。

ただ現実には僕に残酷な運命を突きつけるだけなのだ。

だから僕は決めた。

もう大事なものをつくらないって事を………。

ブログ（後書き）

チヨー楽しいです。小説書くの！
次の投稿までにはそんな期間空かないと思います。
それではありがとうございました。

始まりへの扉（前書き）

いきなり翌日に投稿です^^；

ようやく物語が始まります。だけどまだまだ序盤です！

これからもよろしく願います。

しかし、みじかいなあ。。。嘘ついちゃった。。。

始まりへの扉

「ピピピピピピピピピピピピピピピピ。」

「ん？ああ・・・、朝か。」

目覚ましの音を止めながら僕、”佐神 諒”（さがみ りょう）は伸びをして起き上がる。時計を見るとまだ5時半、大概の人は早すぎるだとか、年寄りみたいというのかもしれない。

実際に昔、「こんなに早く起きて辛くない？、大変でしょ？」って聞かれたこともある。確かに、始めこそこの時間に起きるのは苦勞したし、眠くもあつた。だけど、だんだん続けてくうちに、逆にこの時間以外に起きるという事自体がなくなり、身体にも影響がでるようになってしまった。もうずいぶん前からこの時間に起きるのが当たり前になってしまっている。

「もうこんな時間に起きてても何の意味も無いのに・・・。」

そう、今現在の僕にはこの時間に起きるといふことは何の意味も持たないことだ。

ただ無意識に時間を設定してしまい、身体に染み付いた習慣というものが勝手に体を動かすだけ。だから、いつもすることの無い僕はこのまま昔の習慣に身を任せる。

「まずは下に行かないと。」

1階へと下り、洗面所へ向かい顔を洗う。一度リビングへと足を向

けて水を一口。その後部屋へ戻ると、まずはトレーニングウェアに着替える。1階に行き飲み物とタオルを持って家の外へとでる。まずは5kmの軽いランニング。町内を一周すると大体それくらいからだ。

「じゃあ、大体10分切るくらいのスピードでいくかな。」

足を交互に前へと動かす、滑らかに、そして軽快に。

この感覚もいつもどおり。

”いつもどおり”この感覚に対しても、ある程度の満足を抱くと共に、なぜこんな意味の無い事をしているのだろうというある種の疑問を考えながら走ることもいつもどおりだった。

そんなことを考えているうちに再び家へと戻ってきた。時間を確認すると5時59分。大体8分くらいだろうか。結構なスピードで走っているが、それでも息が切れることはない。

「大体8分つてとこかな？、あのころから体力は変わってないな・・・」

僕は自嘲ぎみに笑う。いまやどれだけの体力があろうと意味も無いから・・・。

「まあ、いいか。それじゃあ、着替えを持って次だな。」

今度も走って行かなければならない。

竹刀袋を背負い、自分の高校の制服を入れた鞆を持って家を出る。

戸締りをした後、学校の方向へと体の向きを変え走り出す。

走ってから30分程すると校門が見えてくる。まだ開いていない門を飛び越え、そのままの勢いで裏門も飛び越えていく。そのまま行くと山道があり、そこを登ることによってようやく自分の目的地へとたどり着くことができる。

10分くらい山道を登ると大きく開けた場所にたどり着く。そこには少し古い神社と森に囲まれた大きい庭がある。

「ようやく着いたか。だけど、これだけ走るとさすがに暑いな。」

水を飲んで、軽く汗を拭く。しかし、特には休もうとは思わない。

僕は近くにある岩に荷物を置くと竹刀袋から大きな刀を取り出す。

ただ、刀と言っても模擬刀だ。だが、そのスラリと伸びた刀身と良く研がれていることが判る光沢のあるその刀は一瞬真剣にも見えてしまう程である。

軽く振り、感触を確かめると目を閉じる。そして、彼の身体の動きが止まる。一瞬にして回りの空気が引き締まったような気がするのは気のせいではないだろう。ひとつ彼が息を吐く。目を開け刀を構え、動きだす。その動きは力強く、美しい。流れるように動くその刀と彼の身体はまさに一つと言ってもいいだろう。

しかし、そんな美しさと同時にその刀と彼の動きから感じられるものがあつた。彼にはもちろんそんなものは感じられない。彼自身が自分の感情というものに鈍いというせいもあつたのかもしれない。

「あ！そろそろ時間だな」

そんなことを知る由もない彼はいつのまにか時間が迫ってきていることに気づいた。といってもそこまで忙しいわけではない。山を登るときと同じように帰れば十分に間に合う。

そんなことを考えながら僕は着替え始めた。トレーニングウェアを脱ぎ制服へと着替える。5分とかからずに着替え、模擬刀を竹刀袋へとしまう。それを背負い、鞆を持つと朝きた山道を戻る。

だが、しばらくしてもいつこうに裏門どころか学校さえ見えてこない。すでに40分は歩いているはずなのだから絶対におかしい。いままで来た道を振り返ってみても特におかしいところはない。どういうことだと思いつながら歩いていくと、あるはずのない道があった。

「どういうことだ？ここはまっすぐ行く道しかないはずなのに・・・」

そこには確かに二つの道があった。

一つのはいつも使う帰り道。

もう一つはいままで見たことの無い新しい道だった。

僕はもちろんいつもの帰り道へと足を運ぼうと動かしだした。見たことのない道など怪しいだけだからだ。だけど、なにかが僕を邪魔して足を動かせない。それと同時にになにかが僕を呼んでいる気がした。すると、ごく自然に見たことの無い道へと僕の足は動いていった。

しばらく歩くと、周りが暗くなってきた。まだ夜になったわけでもない。森がより茂っている場所へときたからだ。そのまま森のアーチを歩いていくと、先ほどトレーニングをしていたところにあった神社とそっくりな神社があった。

「あそこと同じ？ いや・・・、なにか違う。それにこの神社からは僕を呼んだ何かと同じ感じがする・・・。」

その時ひとりでに神社の扉が開いた。

僕は呼ばれたような感覚とともにその扉に近づいていった。

そして扉の中へと入ったと同時に僕は意識を手放した

始まりへの扉（後書き）

やべー（汗

すげーグダグダだ・・・。

こんなの読んでくれる人いるのだろうか

もし読んでくれる人がいたならばぜひ感想などよろしくお願いします！

この小説をより良くできるようにがんばりますので！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0805/>

戦うだけ～ただ守るためだけに～

2010年10月11日23時55分発行